



第七號

昭和十二年
十二月七日
秣陵關附近ノ戰鬪詳報

歩兵第六十六聯隊第一大隊

1932

目次

- 一 戦闘前ニ於ケル彼我形勢、概要
- 二 各時期ニ於ケル戦闘經過及攻撃部署、概要
- 三 戦闘ニ影響ヲ及ホセシ戦闘地ノ状態
- 四 彼我ノ兵力交戦セシ敵兵、團隊號及將師ノ氏名
- 五 戦闘ノ成績及彼我ノ損害
- 六 參考トナルヘキ所見
- 七 功績顯著ナルモノ
- 八 將校同相當官職員表
- 九 死傷表
- 十 武器彈藥損耗表
- 十一 鹵獲表

1933

昭和十二年
十二月七日 秣陵關附近ノ戰鬪詳報

一 戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要(附圖第一參照)

ノ昭和十二年十二月七日秣陵關東方黃堵崗嘉定橋南端
ヲ經テ章山附近ニ亘リ陣地ヲ占領セル敵ニ對シ秋山旅團ノ右
第一線タル^{II(-24)}/_{150i}ハ朝末秣陵關本道方面ヲ攻撃中ナル該地
附近ノ「クリーク」及既設陣地ヲ占領セル敵ハ頑強ナル抵抗ヲ續
行シ攻撃進捗セス

2 歩兵第六十六聯隊(II A 欠)ハ師團直轄トシテ秣陵關南方三軒
大里村北端附近ニ位置セル時左記聯隊命令ヲ下達セラル
歩六六作命甲第七十一號 其ノ一

歩兵第六十六聯隊命令

十二月七日 午前十時
於秣陵關東南方四里張村聯隊本部

一 敵ハ秣陵關東方黃堵崗附近ヨリ嘉定橋南端ヲ經テ章山

1934

附近ニ亘リ陣地ヲ占領シヤリ

旅團(歩兵第六十六聯隊(歩兵砲隊欠)第百五十聯隊
第二大隊ヲ屬ス)ハ第一線トナリ秣陵関附近ノ敵ニ對シ
重点ヲ章山附近ニ保持シ敵ヲ攻撃ス

歩兵第百二聯隊ハ左第一線トナリ史路塹以西ノ地區ヨリ

三元庵方面ニ重点ヲ指向シ章山附近ノ敵ヲ攻撃ス

歩兵第百五十聯隊第二大隊(第二中隊欠)ハ現在地附近

ニ於テ右第一線トナリ當面ノ敵ヲ攻撃ス歩兵第百二聯隊

ノ第二中隊、第八中隊及歩兵第百五十聯隊第二大隊、

ニケ中隊ハ官坦(章山南方三料)ニ集結シ旅團ノ豫備

二聯隊(第二大隊歩兵砲隊欠)ハ師團直轄トナリ暫ク現在地

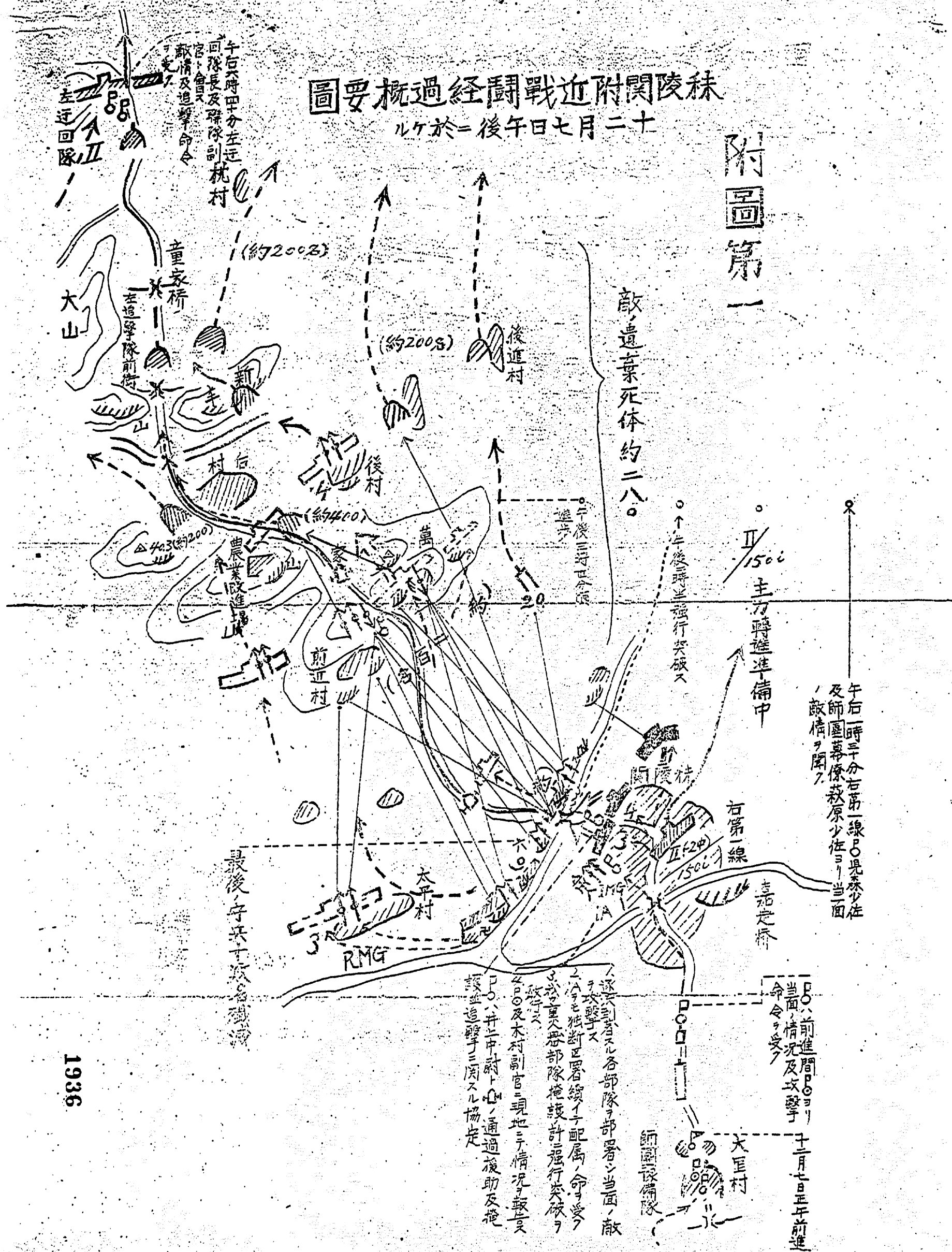
ニ位置セントス

三、第二大隊(第五中隊欠)ハ綠口鎮陶吳鎮方面ヨリ章山
西北方地區ニ迂迴シ敵ノ右側背ヲ求メテ攻撃シ秋山

1935

ルケ於=後午日七月二十

附圖第一



旅團ノ攻撃ヲ容易ナラセムルト共ニ敵ノ捕捉殲滅ヲ企圖ス

ヘレ

四第一大隊ヨリ將校ノ指揮スル一分隊ヲ右第一線連絡將校ト

シ直チニ出發セシメ遂次第一線ノ戰況ヲ報告スヘシ

五余ハ暫ク現在地ニ在リ

聯隊長 山田中佐

下達法

第二大隊ニ口達其他ハ命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

3. 右聯隊命令ニ基キ大隊ハ同地附近ニ開進シ第三中隊

渡辺少尉以下五名(第二中隊辻村自轉車傳令ヲ附ス)ヲ右第一

線連絡將校トシ派遣逐次第一線ノ戰況ヲ知ル

次テ左ノ命令ヲ受ク

歩六六作命 第七十一号 其ノ二

歩兵第六十六聯隊命令

十二月七日午前十一時三十分
於大里村南端聯隊本部

「第一大隊長ハ將來師團主力韋山西方ニ轉進スルヲ顧慮シ

1937

道路偵察將校ハ候ヲ現在地ヨリ官垣方向ニ進路ヲ
偵察セシムヘシ

聯隊長 山田中佐

下達法

大隊長ニ直接口達ス後命令受領者ニ口達筆記セシム

右聯隊命令ノ如ク午前十一時三十分第二中隊八板准尉以下四名
ヲ道路偵察ノ爲派遣ス

又右第一線タル^{II(244)}ノ⁵⁰¹ハ午前十一時秣陵関南端ヲ占領シタルコト
及同地橋梁ハ破壊セラレアルコトヲ渡辺連絡將校ノ報告
ニ依リ承知ス

又飛行機ヨリノ通報ニ依レハ秣陵関―楊山道ニ二三十名
ノ正規兵ノ行動スルヲ認メ章山及大山ノ山嶺ニハ守兵アルヲ
散見ストノ情報ニ接ス

1938

二各時期ニ於ケル戦闘經過及攻撃部署、概要

ノ各時期ニ於ケル戦闘經過及攻撃部署、概要別紙附圖第

一、如シ

二、師團長ハ豫備隊ヲ秣陵関ニ推進スルニ決シ十二月七日正

午稍々前豫備隊長タル山田聯隊長ハ大里村南端出發

一、川大隊(之欠RMGIAヲ付ス)ヲ前衛トシ前進、前進中當面、情

況並次、如キ聯隊命令、要旨ヲ受領ス

歩六六作命甲第七十一號其ノ三

步兵第六十六聯隊命令

十二月七日午後一時
於大里村南端聯隊本部

一、右第一線大隊ハ秣陵関南端ノ敵ヲ驅逐シ該橋梁ヲ

奪取シ目下秣陵関ノ敵ヲ掃蕩中ナリ

二、師團直轄隊タル聯隊第二大隊欠ハ秣陵関北端ニ

進出セントス

三、第一大隊(第二中隊欠聯隊機関銃、歩兵砲隊ヲ付ス)ハ

1939

前衛トナリ秣陵関北端ニ向ヒ前進スヘシ

四、爾餘ハ本隊トナリ左ノ行軍序列ニ其キ前衛ノ後方三百米ニ在リテ續行スヘシ

第一中隊、第二中隊、第十中隊ノ三分一、聯隊本部

通信班、第十中隊ノ殘部、福田隊、第十一中隊

五、余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス、命令受領者ヲ出シ

置クヘシ

聯隊長 山田中佐

下達法

各隊長ニ要旨ヲ傳達シタル後綜合的ニ命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

六、大隊長ハ前進間受領セル前項要旨命令ニ基キ次

ノ如キ部署ヲ以テ尖兵ト共ニ前進ス

大隊命令

十二月七日午後一時
於秣陵関南カ二十米路上

1940

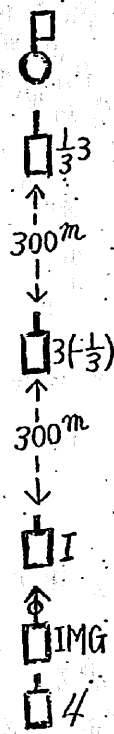
一、右第一線大隊ハ秣陵関ノ南端ノ敵ヲ驅逐シ該橋梁ヲ奪取
シ目下秣陵関ノ敵ヲ掃蕩中ナリ

師團直轄隊タル聯隊(第二大隊欠)ハ秣陵関北端ニ進出ス

二、大隊(第二中隊欠)聯隊機関銃歩兵砲隊ヲ附スハ前衛ナリ
秣陵関北端ニ向ヒ急進セントス

三、第三中隊ハ尖兵中隊トナリ大隊ノ前方三百ヲ秣陵関北
端ニ向ヒ急進スヘレ

爾餘ハ左ノ行軍序列ヲ以テ續行スヘレ但歩兵砲隊ハ
現在地ニ在リテ前任務ヲ續行シ連絡者ヲ出スヘレ



追及中
□^I
□^{RMG}

四、余ハ尖兵ノ先頭ニ在リテ右第一線大隊長ト連絡ノ上本部

ト共ニ行進ス

大隊長

一 川 少 佐

1941

下達法

各隊長ニ前進間要旨ヲ傳達シタル後綜合的ニ命令受領者

ヲ集メ口達筆記セシム

又秣陵関南側橋梁ハ敵ノ完全爆破スル所トナリ土屋工兵
中隊之ヲ復旧作中ナリ秋山旅團ノ右第一線部隊ハ秣陵関
ノ敵掃蕩中ニテ兎森大隊長ト相會セル結果同隊ハ將來本
道以東ノ地區ニ轉進セントスル企圖並當面ノ敵情ヲ知ル

同時師團幕僚萩原副官ヨリ速ニ當面ノ敵ヲ撃退前進
スヘキ旨ノ命令ヲ受ク

又大隊長ハ秣陵関西端ニ進出シ敵情ヲ偵察スルニ附圖第二

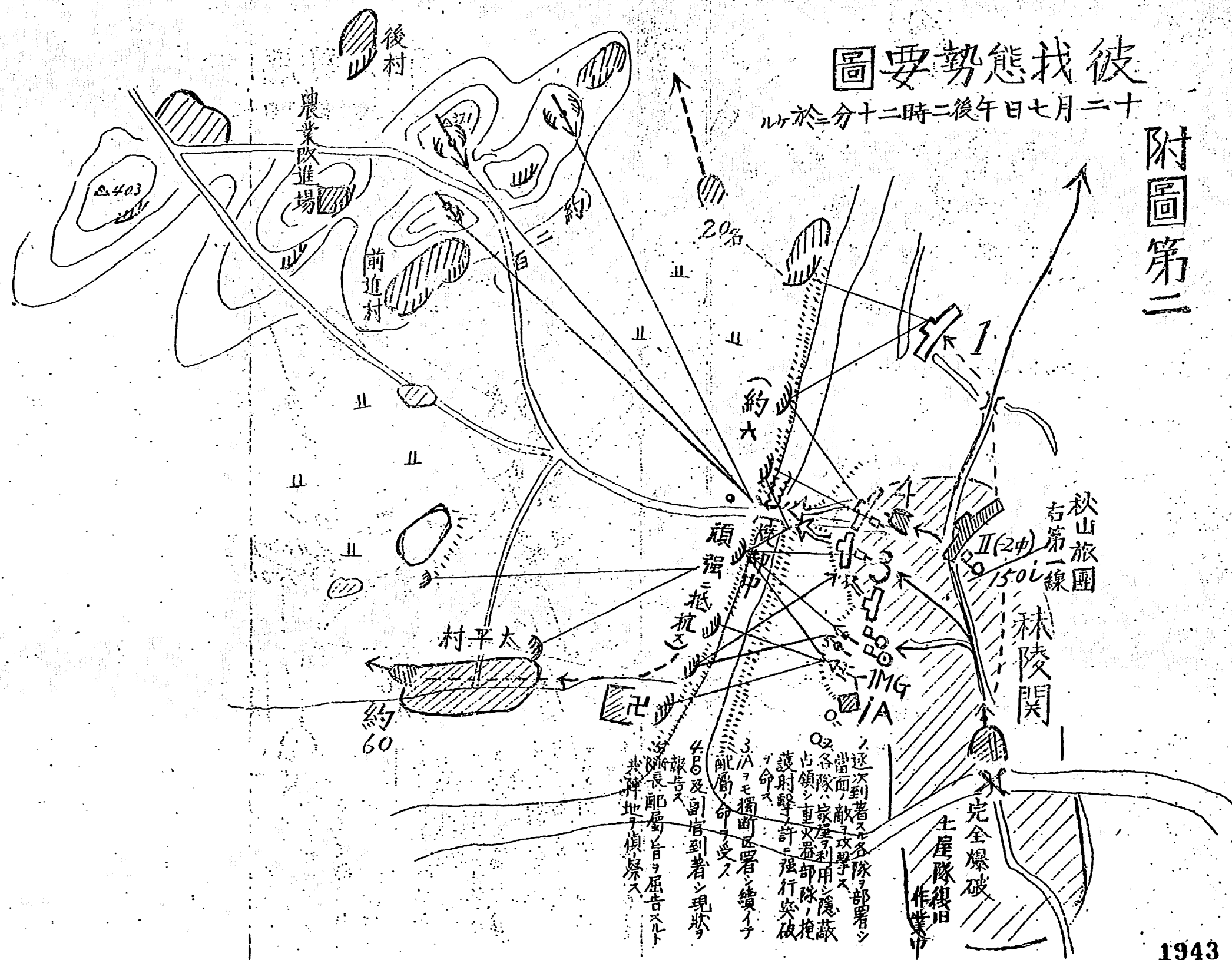
ノ如シ依ツテ逐次到着スル各隊ニ各別要旨命令ヲ下
達シ此ノ間大関上等兵ヲシテ對岸ノ敵ヲ狙撃セシム

大隊命令

十一月七日午後一時五十分
於秣陵関西北端

一敵情既ニ諸官ノ目撃セル如ク彼ノ木橋ハ燒却中ニシテ

1942



敵ハ尙對岸既設陣北ニ據リ抵抗シテリ

二大隊(第二中隊及)聯隊機関銃歩兵砲隊ヲ附スハ速ニ當面ノ敵ヲ驅逐シ橋梁ヲ強行突破セントス

三第三中隊ハ速ニ村端ヲ隱蔽占領シ對岸ノ敵ヲ攻撃スヘシ
特ニ第四中隊強行通過ニカリテハ之ヲ掩護スヘシ

四第四中隊ハ即時第三中隊及我重火器部隊ヲ掩護シ許
ニ燒却中ノ橋梁ヲ強行突破スヘシ

五第一機關銃隊ハ西側村端ニ陣地進ヘ先ツ對岸ノ敵ヲ
射撃シ第四中隊ノ強行突破ヲ掩護スヘシ

爾後大隊ノ攻撃ヲ前進ニ伴ヒ本通南側地區ヲ前進スヘシ
六第一中隊ハ^河ヲ轉進ニ伴ヒ秣陵関西北端ニ進出シ爾後

本道東北側ノ敵ヲ攻撃スヘシ

七余ハ暫ク現在地ニ在リ爾後本道附近ニ到ル

大隊長

一 川 少 佐

下達法

各隊長ニ要旨ヲ傳ヘ後綜合シタルモノヲ口達筆記セシム

6. 當時第一線大隊ニ協力中ノIA/666ヲモ適宜獨斷區署シ大
隊ノ突撃手ヲ掩護セシム暫ク後該隊ハ大隊ニ配屬ノ命ヲ
受ク

又新ニ配屬ヲ命セラレ到着セル聯隊機關銃隊長高岡
大尉ニ同様要旨ノ各別命令ヲ下達シ射撃ヲ準備セシム
此ノ時對岸既設陣地ニ據ル敵ハ有力ナル後方重火器
ノ支援ヲ受ケ我カ各MGIA等ノ射撃第三中隊ノ攻撃手ニ
屈セス我カ突撃手ヲ阻止シテアリ

恰モ此ノ時聯隊長到着シ當面ノ情況ヲ現地ニ就キ
報告セリ

又大隊長ハ第一線部隊ヲ激勵シ、第四及第三中隊
擲彈筒並MGIAノ射撃手ヲ適時統轄指揮スル所アリ

1945

此時第三中隊長ハ夫々部下ヲ村端家屋内ニ銃眼ヲ穿開シ
又屋上ヲ占領セシメ逐次橋梁ニ向ヒ前進セシム

第四中隊長ハ小宅小隊ニ強行突破ヲ命ジ同小隊ハ背
囊ヲ卸シ突入シ準備ヲ整正橋梁直前約六七十米、凹
地及村端ニ待機シ、第三中隊尖兵タリシ川越小隊亦村
端ニ在リテ突撃ノ機ヲ觀フ

我機關銃特ニ歩兵砲ノ射撃ハ適時適切ニ敵ヲ制壓
シ對岸ノ敵ハ動搖ノ色アリ殊ニ橋梁直前ノ敵ハ擲彈筒
ノ集中射撃ニヨリ遂次堤防下ニ姿ヲ没ス

機熟スルヤ小宅曹長以下九名先ツ發進猛火ヲ冒シ半燒中
ノ橋梁ヲ突進ス堤防陣地ニ在リシ敵十數名ハ手榴彈ヲ投
シ執拗ナル反撃ヲ續ケタルモ後備上等兵栗島利一郎
ハ率先突入弁兵ヲ刺殺逃クルヲ射殺シ強行突破ノ動機
ヲ作爲セリ

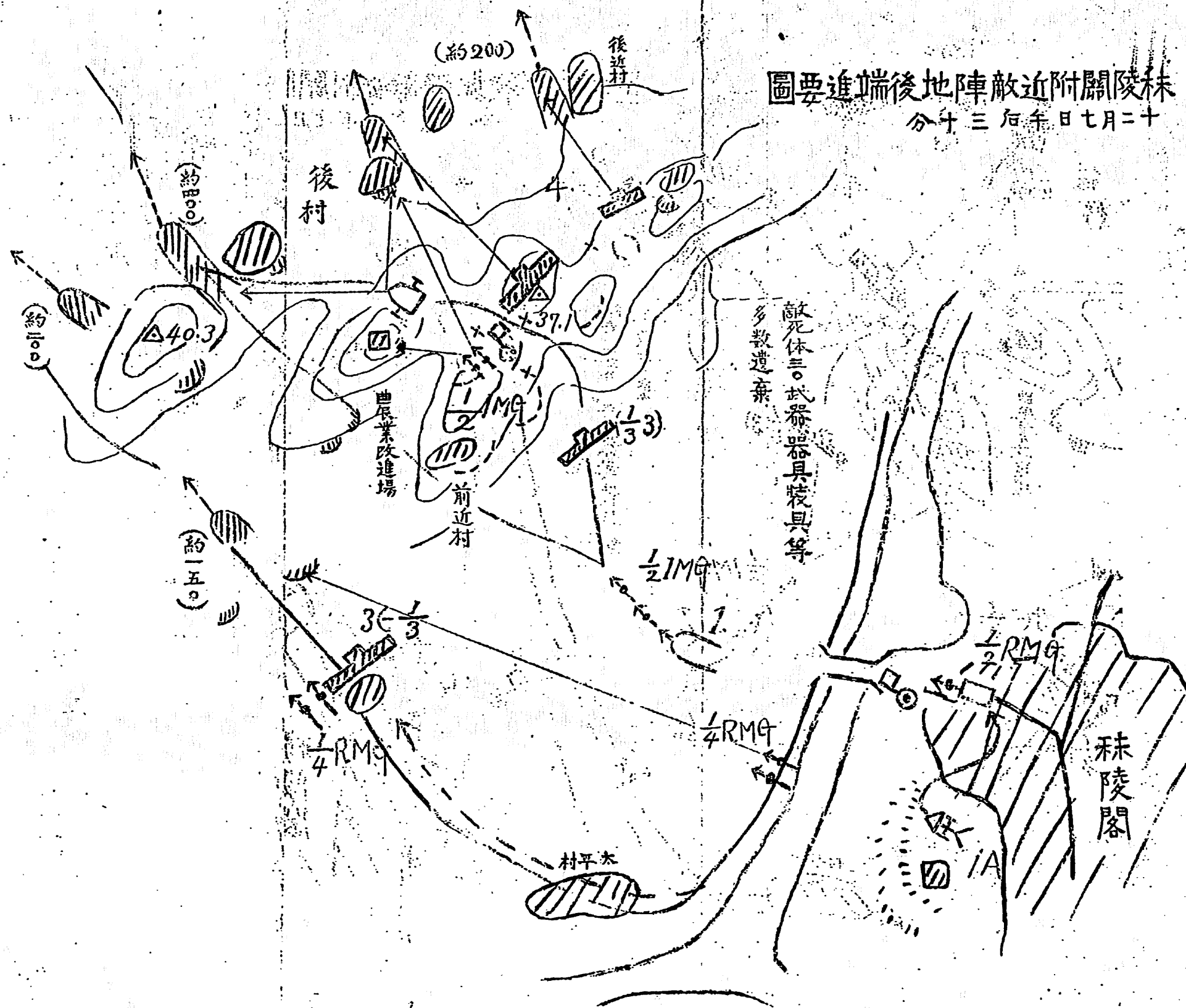
1946

對岸高地ノ敵ハ橋梁附近ニ機銃火ヲ集中セルカ川越
 小隊亦右ト相前後シテ橋梁ヲ渡河シ對岸堤防ニ遂次
 地歩ヲ占ム時ニ午後二時過ニシテ其ノ狀況附圖第三如シ
 大隊長ハ半燒中ノ橋梁附近ニ雜踏暴進シ來ル各隊ヲ々
 部署統制シ主力(即チ本道ヲ令ハ北側對岸ニ主トシテ
 第四及MG一小隊其ノ左ニ第三及RMGヲ以テ後方陣地ノ攻撃手
 ニ當ラシムルト共ニ一部(大隊長ノ手許ニアリシ)大関上等兵
 三荒井伍長及工兵ニ名ヲレテ當初ノ消火ニ任セシメ續イテ
 第四中隊平澤小隊ニ命ス工兵第十四ノ一部協力スヲレテ
 橋梁ノ消火ニ勉メシメ遂ニ半燒ニ終ラシメ更ニ輕裝甲車
 隊井上中尉及工兵小隊等ヲ適宜區署シ第四中隊ノ
 一部ト共ニ該橋梁ノ補強修理ニ當ラシム
 〃澁谷大尉及大根田副官ハ此ノ間大隊長ノ命令意圖ノ
 徹底ニ努メ各隊ノ準備ヲ督勵シ或時橋梁附近ニ

1947

1948

敵死体三。武器器具装具等
多数遺棄



雜踏セル各隊ヲ夫々統制シ後方重火器陣地附近ノ敵情ヲ審ニ觀察報告シ又或時ハ猛火ヲ冒シテ第一線ト共ニ橋梁對岸ニ進出其ノ戰鬪ヲ指道シ又橋梁ノ消火補修ヲ區署スル等積極的ニ克ク大隊長ヲ補佐セリ
12 續イテ第三中隊ハ一部以テ速ニ本道南側「大平村」方向ノ三軒家ノ敵ヲ攻撃シ主力(RMG一トヲ協力セシム)ハ本道近ク後方陣地ノ左翼ニ向ヒ攻撃スヘキヲ命ス

13 大隊長ハ既ニ待機中ナリレ獨立輕裝甲車第六中隊長井上中尉ト橋梁ノ通過ニ關シ援助及掩護射撃ヲ後方陣地ノ突撃方法並ニ於ケル戰車ノ企圖大隊ノ企圖等協定ヲナス

14 輕裝甲車隊渡河セントスルヤ敵ハ再ヒ後方陣地ヨリ猛烈ナル射撃ヲ本道及橋梁附近ニ集中セルカ該隊ハ第一線ヲ超越挺進シ後方陣地ニ向ヒ突進ス各隊ノ志氣

1949

愈々奮ヒ戰線活潑ニ前進ヲ起ス裝甲車ノ軋音ト銃砲
聲トハ一層ノ壯觀ヲ呈セリ

15 之レヨリ先第四中隊長手塚中尉以下數名此ノ戰鬪ニ於テ
戰傷レ館野軍醫中尉ハ猛火ヲ冒レ半燒中ノ橋梁ヲ渡
河第一線ニ進出初療及收容ニ任レ又平澤少尉第四中隊
長代理トナリテ之ヲ指揮レ輕快ナル追撃ニ推移ス

16 大隊長ハ澁谷大尉ヲ伴ヒ卒先々頭ニ在リテ本道上方輕
裝甲車隊ト共ニ前進レ其ノ獲得セル戰果ヲ擴張シ遂
次躍進的ニ各隊ノ協同連繫ヲ指導セル中突進ヲ激勵ス
大根田副官ハ此ノ情況ヲ聯隊長ニ報告スルト共ニ後方
各部隊ノ前進ヲ督勵ス

17 第四中隊及附小隊ハ逐次本道北側地區ヲ前進レ前進
村北方^{△37.1}萬家山附近ノ後方重火器陣地ヲ占領シテ
後村方向ニ對シ追撃キレ一部ヲシテ更ニ右前方部落ノ

1950

側背ニ迫リツ、本道東側地區ヲ前進セシム

ハ大隊長ハ井上中尉ヨリ本道方面ノ敵ハ約二千ニシテ目下
退却中ナリトノ通報ヲ受ケ急行シテ(裝甲車ノ牽引車
ニ便乗ス)MG連見小隊ヲ^{△371}南側丘阜上ニ招致第一線ノ前
進ヲ援助セシメ一意各隊ノ突進ヲ促ス

然レトモ各隊ハ既設陣地ニ殘存セル敵ノ掃蕩及クリック
等ノ地形障礙ノタメ行動ヲ制肘セラレ大隊長ハ輕裝甲車隊
ノ獲得セル戰果ヲ擴張スル爲手裡ニ在ル部下ノ勇兵ナルニモ
拘ラス或時ハ輕裝甲車ノ後ニテ或時ハ之ニ先ニシ果敢前進一
舉ニ敵陣後端ニ進出ス

敵ハ我ヲ攻撃手ニ耐ヘ兼ネ多敷ノ死体及器材裝具等ヲ遺棄
シ本道ヲ避ケツ、一千有餘ノ敵ハ全ク壊亂ニ陥リ予期シタル
大山東側新丰山附近ノ既設陣地ノ抵抗ヲ断念放棄シテ潰
走スルニ致レリ(附圖第四)

1951

19 大隊第一線新丰山南側凹地ニ致ルヤ深ニ米中五米ノ深濠ヲ
一連約五百米ニ亘リテ構築セラレ本道上ハ三ヶ所爆破セラレ
アリテ輕裝甲車ノ通過不能ナル依テ直ニ第一中隊ヲレテ
之ヲ補修セシメ約二十分ノ後輕裝甲車ヲ通過セシム此ノ間
第一線ハ既ニ約千米ヲ先行ス

20 茲ニ於テ第三中隊渡辺小隊ヲ追撃チ尖兵トナレ本道ヲ蘇
田橋ニ向ヒ追撃チセシメ主力ヲ適次本道ニ招致シ大隊副官
ヲレテ情况茲ニ止圖ヲ聯隊長ニ報告ス此ノ時聯隊長ヨリ
大隊ハ舊道撃ち後前衛トナリ花神庙ニ向ヒ急追スヘキ要旨
ノ命令ヲ受領ス

歩六六作命甲第七十二號其ノ四

歩兵第六十六聯隊命令

十一月七日午後三時三十分
於秣陵関北端聯隊本部

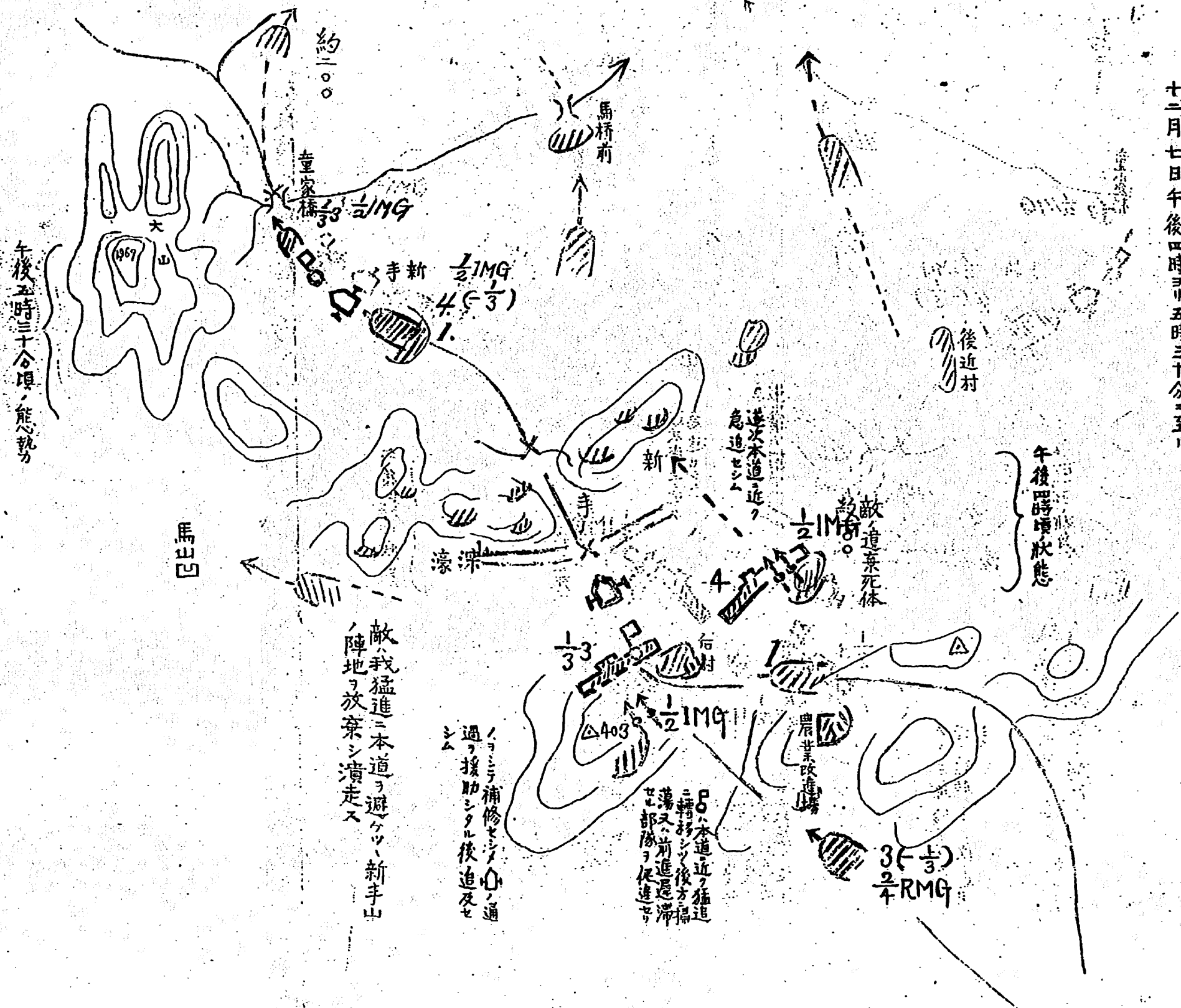
一敵ハ續々退却シ其ノ後方約二千米ニ約千名以上ノ兵力集
團シテ退却中ナリ師團ハ敵ヲ花神庙ニ追撃ス

1952

附圖第四



農業改進場附近追撃部署要圖
十二月七日午後四時ヨリ五時三十分ニ至ル



1953

二聯隊(第二大隊第三大隊(第十中隊第十一中隊第十二中隊欠)
聯隊砲中隊欠)ハ左追撃隊トナリ東善橋ヲ經テ花神庵ニ向
ヒ追撃セントス

右追撃隊ハ秣陵関ヨリクリクニ沿フ道路ヲ前進スル筈

三前衛タル第一大隊ハ依然前衛トナリ聯隊ノ進路ヲ花神庵

ニ向ヒ急ニ追スヘシ

四爾余ハ本隊トナリ前衛ノ後方四百米ニ在リテ跟隨スヘシ

五余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス、命令受領者ヲ出シ置クヘシ

聯隊長 山田中佐

下達法

企圖ヲ第一大隊長ニ豫メ指示シ置キ後綜合的ニ命令受
領者ヲ集メ口達筆記セシム

又敵ハ主力ヲ本道東北側馬橋前及沈村方向ニ一部ハ馬山
凹方向ニ退却セルヲ見ツ、追撃ヲ續行ス

1954

新丰山東側橋梁モ亦爆破セラレアルヲ以テ第四中隊ニ之
カ補修ヲ命シ尖兵ハ依然追撃ヲ續行ス

此ノ項輕装甲車隊(井上隊ニ引續キ藤田隊)モ逐次追
及シ童家橋ニ致ルヤ又々敵ノ一部爆破セル橋梁ニ遭遇ス即
チ本道ニ追及サル至リテ隊ヲ一應急修修理ニ當ラシメ大
隊主力ハ尚追撃ヲ續行ス午後六時頃大山凹附近ヨリ
友軍騎兵并候ノ帰還スルニ逢ヒ敵主力ハ本道東側ヲ約
二百位退却セルヲ目撃セルト通報ヲ受ク

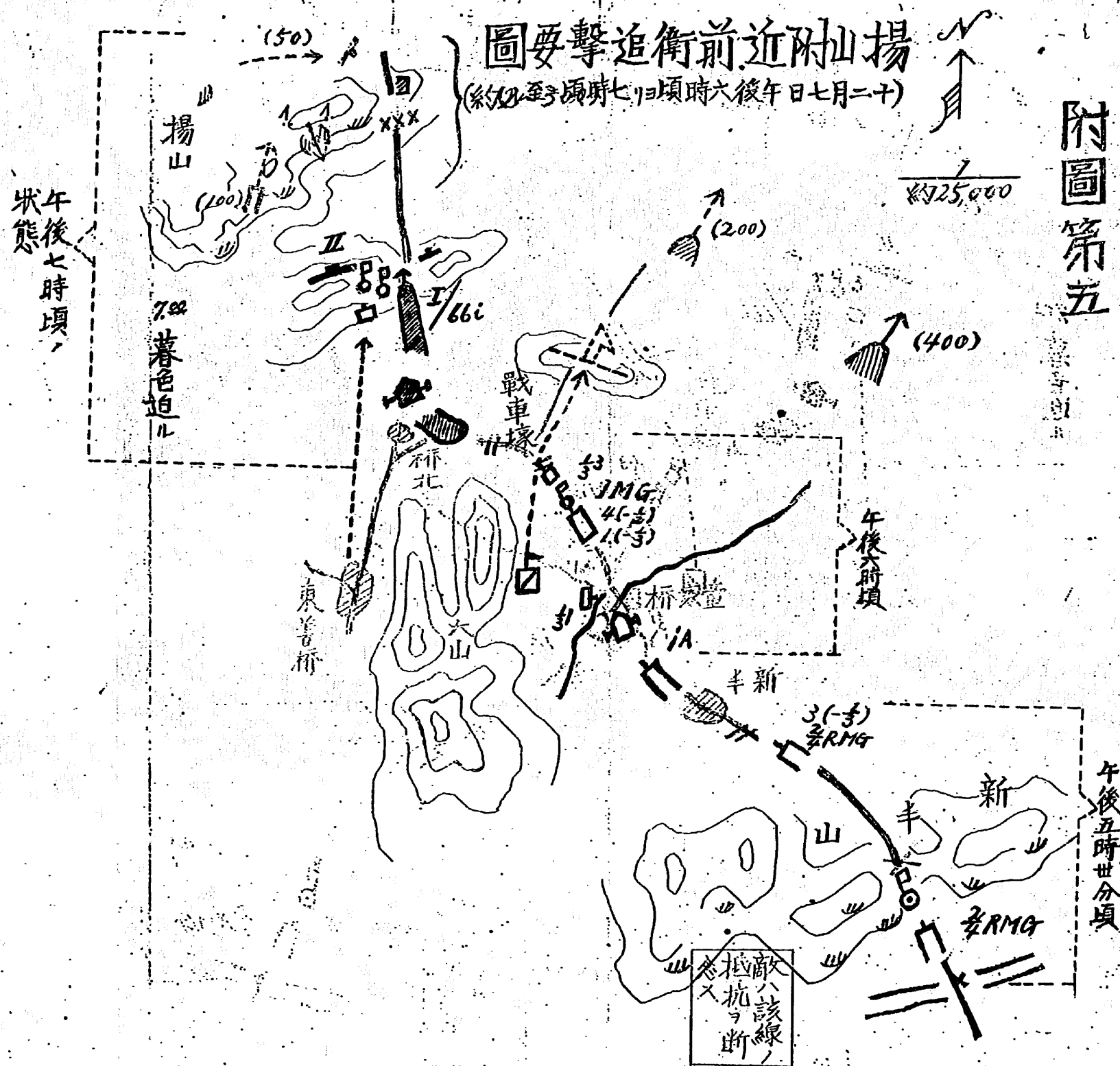
急追ニ動モスレハ後シ勝トナル各隊ヲ激勵シツ本道(京建公路)
ヲ追撃ス大隊長ハ尖兵ノ後方ニ在リテ大山東北側ヲ通過セル
頃友軍騎兵ハ本道東北側高地ニ在リテ敵ヲ射撃シ我頭上ヲ
跳彈頻リニ跳飛ヲ聞キツ前進シ橋北ニ又路ニ於テハ輕裝
甲車隊モ亦東側斜面ニ突進シツアルヲ目撃ス

橋北北方高地(揚山東南方)ニ於テ左迂回隊タル稻垣第二

1955

(約初至頃時七、頃時六後午日七月二十)

1
約25,000



1956

大隊長ト會レ當面ノ敵情及同隊ノ情況ヲ承知ス時ニ七日
午後六時四十分頃ニテ暮色漸ク迫ラントシ前方約五百米
ノ松林ノ「ト」チカ並揚山東南斜面点々ヲ移動スル敵兵約
百名ヲ見ル

揚山及東南斜面本道附近並其ノ後方高地(銀彪山附近
ハ此ノ時見エサリキ)ニ所々「ト」チカ又ハ掩蓋銃座ヲレキモノオ
見近距離ノモノハ時々機銃ノ射撃ヲ加ヘ其ノ兵力約四〇〇
本道附近ノモノハ約ニ〇ト判断セラル

大隊長ハ薄暮敵ノ配備變更ノ隙ニ乘レ攻撃ヲ續行シ
依然任務ニ邁進スルニ決シ尖兵中隊ニ命令ヲ與ヘ將ニ前進
ニ移ラントスル際木村聯隊副官來リ前衛ハ依然花神廟
ニ向ヒ急追スヘキ聯隊命令ヲ受領ス

此ヨリ稍々前第三中隊主力及歩兵砲隊大隊後尾ニ到
着シタルモ聯隊機關銃隊並第四中隊ノ一小隊ハ來タ

1957

追及スルニ至ラス

三 輕装甲車隊ハ現在地附近ニ停止スヘキ旨通報ヲ受ク
三 戰鬪ニ影響ヲ及ホセシ戰鬪地ノ狀態
道路

秣陵関―揚山東麓―南京へ自動車道タル京宣
公路ハ重要交通道ナリ然レトモ諸所
橋梁ハ爆破或ハ焼却セリテ歩兵ノ補修ヲ要スル
モノ戰車壕又ハ樹幹塵埃ヲ以テ阻絶セル筈アリ道路ノ
両側ニ墓地丘陵地多クトラミテ混ハタル既設陣地
アリテ道路ヲ縱射ノ準備アリ

口 秣陵関ト揚山東麓附近ノ部落内ニ家屋防禦又ハ
水壕ヲ構築シテ隨所ニ抵抗シ得ル設備アリ

ハ 大山東麓新丰山ノ線ハローカ陣地ニ着手中ニシテ未完成
ノモノ多ク附近ニ多量ノ材料集積セラレタリ

揚山附近ハ守兵頑強ニ守備シテアリ

1958

四 彼我兵力、交戦セシ敵兵、團隊號及將師ノ氏名
我軍 (附表第一参照)

長 一川少佐

歩兵第六十六聯隊第一大隊(第二中隊欠)

同 聯隊機関銃隊(長 高岡大尉)

同 歩兵砲隊(長 野澤大尉)

協力部隊

独立輕裝甲車第六中隊 長 井上中尉

敵兵、團隊號及將師ノ氏名

兵力 十有餘(機銃數挺ヲ有ス)

其他 不詳

五 戦闘成績及彼我ノ損害

1. 敵ハ我ヲ勸告ヲ入ルニ首都南京城外一連ノ要塞陣地ヲ固守シ

1959

最後、抵抗ヲ為スコトニ決シ其ノ前進陣地ヲ大山新斗山又ハ揚山將
軍山附近ニトリケカ掩蓋銃砲座又ハ散兵壕深壕ヲ構築シ或ハ
京建公路ノ各橋梁ハ悉ク爆破若クハ焼却シ本道両側ノ各要点並
村落等ニハ防衛示ユ事ヲ施シ成シ得ル限り友軍ノ攻撃ヲ遲滞セト企
圖セリ

2. 秣陵関附近ハ數條ノ「フリック」及南京ニ通スル道路ノ交會点ニシテ
地形亦敵ヲ拒止スルニ便、一ツノ要点ナリ

茲ニ於テ須臾モ攻撃ヲ遲滞セシカ本道橋梁ハ完全ニ破壊セラレ
敵ヲシテ持久ノ目的ヲ達成セシムルコト必然ニシテ急速ナル追殺ヲ頓坐
スベシ

3. 然ルニ大隊長ノ果斷適切ナル決心處置茲ニ重火器部隊及歩兵中隊
ノ協力ヲ特ニ延焼中ノ橋梁ト敵十字火ノ許ヲ強行突破セル旺盛
ナル攻撃力トハ遂ニ敵ノ企圖ヲ挫折セシムルノ因ヲ為シ之ニ引續ク輕

1960

裝甲車隊ト各部隊、積極的協同動作ヲ以テセル急追數手トハ克ク
 一千有余ノ敵ヲシテ全ク壊乱ニ陥ラシメ大山東側新斗山附近ノ要線
 ニ於ケル既設陣地ノ抵抗ヲ断念放棄シテ潰走スルニ至ラシメタルモノニ
 シテ進路ヲ開拓シ聯隊ノ前進ヲ速カナラシムルヲ得タリ
 4敵ハ不意ニ第一線歩兵ヲ跳越躍進シ来ル所ト之ニ相並ニテ躍
 進又躍進シ来ル歩兵部隊ノ強追ニ愈々壊乱ニ陥リ本道ヲ離レ
 多數器材裝具死体ヲ各所ニ遺棄シテ潰走シ甚大ナル打撃ヲ蒙
 リタリ
 之ニ反シ我軍ハ克ク歩戰又ハ歩兵ト重火器トノ協カヲ
 益々緊密ナラシムルヲ得且損傷少ク軍隊ノ志氣愈々軒昂シタリ
 5敵ノ損害（鹵獲表參照）

(1) 遺棄死体 約二百八十

(2) 捕虜 三十

(3) 其他多數ノ兵器彈藥裝具器材ヲ遺棄シテ潰走シタリ

1961

6. 我損害左表ノ如シ

負傷第四中隊長

中尉 平塚 清

全

伍長 縣 栄

全

一等兵 五島 喜作

全

第一中隊

伍長 川上 武雄

1962

六、參考トナルヘキ所見

1. 支那兵ノ素質劣悪ナリト雖モ、韌強ニシテ、慄悍ナル者アリ、即チ死地ニ陥リシ時、敵愾心ヲ生シタル時、俄然狂暴、韌強ナル抵抗ヲナス、秣糧関木橋附近ニ在リシ守兵ハ、克ク我カ猛射ノ中ニ在リテ、反覆數發ノ手榴彈ヲ投擲シテ、我兵ノ接近ヲ阻止シタリ、
2. 重擲彈筒ノ裝備ヲ必要トス、深壕塹防等掩護物直後ニ在ル敵ニ對シ、曲射彈道ト殺傷力トヲ必要トスルヲ屢ニタルカ、輕擲彈筒ニテハ、射程及ハサルヲ遺憾トス、
3. 歩戰協同ハ遺憾ナク、發揮スルヲ得タルモ、ト信ス、輕裝甲車隊ノ第一線超越前進ノ爲ニ、步兵ヲ以テ半燒中ノ木橋ヲ強行突破シ、尙突破後ノ援助並掩護又ハ戰果ノ擴張等、緊密ナル協同ト十分ナル成果ヲ収メタリ、
4. 戰機ヲ看破シ、果敢放膽ナル行動ヲナスコトハ、既ニ退却ノ緒ニ就ケル支那軍ニ對シテハ、特ニ緊要ナリ、

1963

初々秣陵関橋梁附近ニ於テハ頗ル執強ナル抵抗ヲ試ミタル敵
モ我カ第一線カ輕裝甲車隊ト共ニ突進ヲ始ムルヤ、反撃ノ機
會アリレニ不拘先ヲ爭フテ敗走セリ。即チ當時大隊長ノ手裡
ニアリシ約ニ小隊ノ小兵力ニレテ後方部隊特ニ機関銃ノ主力(四小隊)
ハ未タ追及セス而カモ農業改進場附近ニ設備セシタル敵ノ第
ニ線陣地ノ火制下ニ在リレヲ以テ反撃可能ナリレナリ。

1964

一、功績顯著ナルモノ
ハ、部隊トシテ

第三中隊
第四中隊

秣陵関西北側本橋附近ノ戦鬪ニ於テ敵ハ該橋ヲ燒却
シ對岸及後方前近村附近ノ既設陣地ヨリ猛烈ナル
重火器ノ射撃ヲ集中シ頑強ナル抵抗ヲ續ケ克ク我々
大隊ノ前進ヲ阻止シ刻々諸兵ノ通過ヲ困難ナラシムルノ
情況ニ於テ中隊ハ該橋ノ強行突破ヲ命セラルヤMGIAノ
掩護射撃ノ許夫々相前後シテ突破ヲ強行シ當面ノ
敵ニ突入最モ頑強ナル敵守兵ヲ殲滅シ以テ爾後大隊
追撃ノ動機ヲ誘起セル功績ハ拔群ナリ

二、第一大隊本部

1965

大尉 澁谷 仁太

秣陵関橋梁ヲ突破シ第一線ハ隊對岸ニ進出スルヤ
之ニ續イテ前進大隊長ノ意圖ノ如ク第一線ノ戦闘ヲ指
導シ大隊長輕装甲車隊ト共ニ敵後方陣地ニ進出ス
ルヤ之ニ伴ヒテ前進情况ヲ判断シテ一舉陣地後端ニ
進出ノ進言ヲ爲シ大隊長ヲシテ果敢ナル追撃ノ決意ヲ
鞏固ナラシメタリ

軍醫中尉 館野 昌 辰

秣陵関西北木橋附近ノ戦闘ニ於テ第四中隊長手塚
中尉以下数名ノ戦傷アルヲ目撃スルヤ十字火ヲ冒シ半
燒中ノ橋梁ヲ渡河シ第一線ニ進出シテ戦傷者ノ初療
並収容ニ任シ大隊ヲシテ輕快ナル追撃ニ推移スルヲ得セ
シメタリ

1966

歩兵少尉

大根田

陵

秣陵関ニ於テ敵陣ノ強行突破ヲ企圖スルヤ直ク大隊長
ヲ補佐シ重火器ノ掩護配置、突撃ノ部署、橋梁ノ消火
並ニ補修ノ區署、装甲車隊トノ協定等ヲ迅速確實ニ準
備シ又突破ヲ敢行スルヤ敵彈雨注ノ間ニ混乱スル部隊ヲ
適切ニ指導シテ克ク突破ヲ完成セシメタリ

3 後歩兵伍長

荒井誠

壽

I 隊歩兵上算兵

大関初次

右ハ延焼中ノ木橋ヲ敵ノ猛十字火ノ許ニ在リテ工兵ニ名ト協
力シ當初ヨリ之ヲ消火ニ努メ遂ニ之ヲ半焼ニ終ラシメタル成績
ハ甚大ナリ

第三中隊

中隊長歩兵中尉 西澤辨吉

1967

秣陵関西北端ニ於ケル敵ノ抵抗ヲ破摧スルニ當リ當時大
兵中隊長タル西澤中尉ハ適切ニ部下ヲ指揮シ本道及村
端附近ノ家屋ヲ利用シテ我重火器部隊ト共ニ第四中隊
ノ強行突破ヲ準備セシメ且ツ自ラ突破ノ機ヲ窺ヒタルモ
敵ハ容易ニ退却ノ模様ナキヲ見ルヤ大隊長ニ卒先橋梁
ノ強行通過ノ決意ヲ披歴シ部下ノ一部ヲ以テクリーク對岸
ノ敵ヲ制壓シ主力ヲ以テ橋梁突破ノタメ夫ニ部置ヲ定メ
輕機及擲彈筒分隊ヲ橋梁附近ニ進出シ敵ノ制壓ニ任
セシム原亦候及川越中隊等ハ機熟スルヤ敢然立ッテ敵陣
ニ突入シ更ニ機ヲ失ヒス聯隊機関銃ト協力シテ太平村
方面ヨリ巧ニ敵ノ右翼ヲ包圍攻撃シテ敵ニ多大ノ損害
ヲ與ヘタリ其功績ハ拔群ナリ

尖兵中隊長歩兵准尉の川越 進

橋梁ノ強行突破ヲ命セラル、ヤ部下輕機関銃及擲彈筒
分隊ヲシテ最モ頑強ニ抵抗シアル對岸ノ敵ヲ射撃セシメ自ラ
小隊ノ先頭リテ機熟スルヲ知ルヤ延焼中ノ橋梁ヲ第四

1968

中隊ノ宅ノ隊ト協力シテ敵陣ニ突入シ敵兵ヲ斬殺シ之ヲ
潰走セシメタリ此ノ放膽機敏ナル行動ニ依リ大隊ノ追撃
動機ヲ誘起シタル功績ハ拔群ナリ

豫歩兵伍長 原

中隊 中隊長 原

橋梁ノ強行突破ヲ命セラルルヤ第二小隊ヨリ決死ノ兵ヲ
募リ選抜セル五名ヲ指揮シ敵ノ十字火ヲ冒シツ延焼中
ノ橋梁ヲ突破シ敵陣ニ突入シ之ヲ潰走セシメタリ此ノ
勇敢機敏ナル行動ハ遂ニ半焼ニ終ラシメ小隊ノ太平村進
出ノ動機ヲ誘起シタル功績ハ拔群ナリ

豫歩兵伍長 荒井 誠 哥のりく

後歩兵上等兵 松島 勝利 小山初郎

全 全 湯田 芳 松

右ノ延焼中ノ木橋ノ強行突破ノ際川越准尉及原

1969

三
候ト相前後シテ敵ノ猛射ヲ冒シ此ノ橋梁ヲ渡河シテ對
岸ノ敵陣ニ突入シ之ヲ潰走セシメタリ此ノ勇戦機敏ナル
行動ハ遂ニ半燈ニ終ラシメ大隊進撃ノ動機ヲ誘起セリ
功績ハ拔群ナリ

豫歩兵伍長

武藤

昇

台序

法片

秣陵関橋梁ヲ強行突破スル降中隊長ヨリ擲彈筒
分隊ニ對岸ノ敵ニ對シ制壓ヲ命セラルヤ武藤伍長
ハ敵ノ猛撃ヲ冒シテ有効射程内ニ進出シ正確有効ナ
ル射撃ヲ以テ突撃ノ動機ヲ誘起セリ

中隊長歩兵曹長

小宅伊三郎

延焼中ノ木橋ノ強行突破ヲ命セラルヤ我カ所ノ掩護射
撃ノ下ニ卒先敵ノ集中火ヲ冒シ栗島上等兵以下八名ヲ
指揮シ延焼中ノ橋梁ヲ突破シ對岸ノ敵陣ニ突入シテ

1970

最も頑強ニ抵抗シアル敵守兵ヲ刺殺シ以テ橋梁ヲ半焼ニ
終ラシメ大隊主力ノ追撃ヲ勦機ヲ誘起スルヲ得タル功績
ハ拔群ナリ

後 歩兵上等兵 栗島利一郎

右小宅曹長ト橋梁強行通過ノ際卒先々頭ニ立チテ
延焼中ノ橋梁ヲ敵ノ集中火ヲ冒シテ一番乗ヲ敢行セリ
其ノ放膽果敢ナル行動ハ衆ノ範トスヘク其ノ武功ハ特ニ
拔群ナリ

歩兵一等兵 五ノ島喜作

延焼中ノ木橋ノ強行通過シ敵陣ニ突ヘセルヤ一彈ヲ
足部ニ負傷セルモ屈スルコトナク敵猛射ノ中ニ在リテ輕
機関銃射手トシテ正確ナル射撃ヲ續ケ更ニ三彈ヲ受ケ
遂ニ出血激シテ射手交代ノ止ムナキニ至ルヤ自ラ緋帶ヲ

1971

ナシ尙彈藥補充ニ連絡ニ從事シタル筈兵ノ模範ト
スヘク武功拔群ナリ

中隊長代理歩兵少尉平澤銀次郎

第四中隊長手塚中尉橋梁附近戦闘ニテ受傷スルヤ
消火中ノ手澤少尉ハ直ニ中隊長代理トナリ中隊ノ指
揮ヲ執リ大隊カ輕裝甲車隊ト相並ンテ進撃スル
ニ至ルヤ敢然先頭ニ在リテ克ク部下ヲ激勵シテ猛烈
果敢ナル進撃ヲ敢行シ大隊ノ進撃ノ成果ヲ甚大ナラ
シメタリ

1972

第一機関銃中隊

准尉

蓮見正男

延焼中ノ木橋ノ強行通過ノ際小隊長トシテ克ク突撃部隊トノ協同ヲ緊密ニシ對岸陣地ヨリ我カ突撃ヲ妨害シタル敵ヲ射撃シテ之ヲ制壓シ尚續テ後方重火器陣地ニ對シ猛烈ナル射撃ヲ指向シテ敵ヲ制壓シ大隊主力ノ橋梁突破ヲ掩護セリ爾後大隊カ輕壯衣甲車ト相並テ追撃スルニ及ヒ機ヲ失セス前近村台ニ進出シ潰走セル敵ヲ猛射シテ其ノ戰果ヲ擴張シ大隊ノ追撃ニ貢献シタル武功ハ拔郡ナリ

伍長

川嶋勘左衛門

伍長

仁木安次郎

大隊カ延焼中ノ木橋強行通過ノ際機関銃分隊長トシテ克ク突撃部隊ニ協力シ對岸既設陣地ニ在リテ我カ突撃ヲ

1973

ヲ妨害スル敵ヲ射撃シ、尚續イテ後方重火器陣地ニ對シ猛
烈ナル射撃ヲ指向シテ大隊主力ノ橋梁突破ヲ掩護シ、續イテ
大隊ノ追撃ヲ容易ナラシムル等適切ナル戰鬥指揮ヲ行ヒ貢獻
スル所大ナリ

1974

隊
號

職

首

氏

名

本部

大大大大
隊
副
官所長

金筆主步步步
醫計兵受受受
中少少少少
尉尉尉尉佐

錢大猷
下根
郭田谷川
謝仁勇
錢大猷

第一中队

中務隊長代理

步兵少尉

國語部
文部
三
部七

策三

中
衛
長

步兵 中尉

西澤群吉

第四中隊

中 璫 象

步 步
矣 矣
少 中
刻 刻

手塚清

第一
MG
中
修

中隊長

吳中制

部并平人

聯隊
ME
隊

傷
傷
傷

步步
采采
少大
續續

周
周
誠
正作

步兵砲中隊

中
陽
長

三
六
八
十

龍野
澤
治
大

1975

戦闘詳報第一號附表

昭和十二年七月七日 第一大隊死傷表

備考	總計	歩兵隊								死				傷				生死不明
		歩兵第一隊	歩兵第二隊	歩兵第三隊	歩兵第四隊	歩兵第五隊	歩兵第六隊	歩兵第七隊	歩兵第八隊	死	死	死	死	傷	傷	傷	傷	
本表外輕傷ニシテ尚傷中ニ存ス者 歩兵隊ニテ後援隊ノ大隊 准士官下士官等	計	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二

1976

12
1212

第一大隊 鹵獲表

秣糧

60

一、敵ノ遺棄死體二八〇
二、器具ハ土工器具多シ

考